

令和4年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立中野小学校

令和5年3月

大阪市内立中野小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○学級活動を研究してきたことにより自ら学級の課題を見つけ、自分の考えをもって話し合い、解決したり、よりよい学級にするために何が必要か考えて実践してきたりした結果、自ら考え行動しようとする児童が増えてきている。そして児童会に学校全体でやりたいことを提案するなど学級から学校全体へと自主的な活動が広がりつつある。「自分たちで中野小学校をよりよくしていく」という気風が受け継がれている。また、高学年のリーダーにあこがれをもち、下学年のフォロワーシップも育ってきている。低学年では、当番的な活動だけでなく創意工夫のできる係活動も盛んで「みんなのために役に立ちたい」という気持ちが育っていて委員会活動にもそれぞれの委員会で今までよりよくしようと創意工夫の見られる活動が増えてきている。

○学級活動で学んだ話型を基本としてどの学習でも「話す・聞く」ことの態度を育てることに重点を置いて指導し、話しやすい学級集団作りを心がけてきた。その結果、小グループでは話し合うことができるが、全体の中では進んで自分の意見を表現することが苦手な児童がまだまだ少なくない。

○学習の習得の2極化が進んでいるので、基礎・基本の定着をさらに確実にすることが必要である。また、全国学力・学習状況調査や小学校学力経年調査の結果から、自分の考えを文にまとめて書くことも苦手な児童が多い。書く機会を増やしたり、タブレットを使って発表したりしていくことにも積極的に取り組む必要がある。

○校内環境に恵まれ、広い運動場でドッジボールや鬼ごっこ遊具を使って元気に遊ぶ児童が多いが、高学年になると外遊びをしない女子児童も多い。運動能力にも2極化され、野球・サッカー・バスケットボールなどよく運動する機会がある児童とゲームやスマートフォン等で1日2時間以上遊ぶ等運動する機会が少ない児童との体力の差が年々大きくなってきている。特に、握力・長座体前屈や反復横跳びが大阪市平均を下回っているので、瞬発力や柔軟性をつけ、意欲的・日常的に体を動かす子どもを育てる。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】****基本的な方向1 安全・安心な教育の推進**

①令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を90%以上にする。

②年度末の校内調査において、不登校児童の割合を前年度より減少させる。

③年度末の校内調査において、前年度不登校の児童の改善の割合を増加させる。

基本的な方向2 豊かな心の育成

④令和7年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和7年度末に90%以上にする。

⑤令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和7年度末に77%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上

⑥全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を令和 7 年度末に国語・算数とも 1.00 にする。

⑦令和 7 年度末の校内調査の「習熟度別少人数授業やグループ別授業は分かりやすい」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。

基本的な方向 5 健やかな体の育成

⑧全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を令和 7 年度末に男女とも 1.00 にする。

【学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向 6 教育 DX の推進

⑨令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の 5 年生の時に受けた授業で、コンピューターなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 90%にする。

基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

⑩ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。学校閉庁日は、夏季休業で 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間において 1 日以上設定する。

基本的な方向 8 生涯学習の支援

⑪令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の読書は好きですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を 76%以上にする

基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協議した教育の推進

⑫令和 7 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、令和 3 年度より 1 ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

基本的な方向1 安全・安心な教育の推進

- ①令和4年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、不登校児童の割合を前年度より減少させる。
- ③年度末の校内調査において、前年度不登校の児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

基本的な方向2 豊かな心の育成

- ④令和4年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和4年度末に85%以上にする。
- ⑤令和4年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和4年度末に75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- ④小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ⑤小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
- ⑥小学校学力経年調査における「外国語（英語）勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

基本的な方向5 健やかな体の育成

- ⑦小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。

学校園の年度目標

- 新体力テストの反復横跳びの記録を全学年1学期より3学期を向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

基本的な方向6 教育DXの推進

- ⑨令和4年度の全国学力・学習状況調査の5年生の時に受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を80%以上にする。

基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- ⑩ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日は、夏季休業で3日以上、夏季休業期間以外の休業期間において1日以上設定する。

学校園の年度目標

基本的な方向 8 生涯学習の支援

⑪令和4年度の小学校学力経年調査・校内調査の読書は好きですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協議した教育の推進

⑫令和4年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、令和3年度より1ポイント増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

安心・安全な教育の推進では、全市共通目標について、いじめアンケートで児童がいじめと考えた事案はほとんどが些細な事例ですぐに指導でき、その都度解決し、再発もなく至っている。新たに不登校（傾向）になった児童が2人おり、SCや医療機関と連携して対応を進めているが、児童の不登校は続いている。

本校の年度目標を見ると、「人の役に立つ人間になりたいですか」という項目では、目標を大きく上回り特別活動で培ってきた成果が出ているが、「自分にはよいところがありますか」の項目で目標は達成したが、高学年の肯定的な回答の割合が低く自分に自信が持てない児童が多いことが分かった。

誰一人取り残さない学力の向上の全市共通目標について、学力経年調査の全国比を前年度より全学年上げることはできなかったが、ほぼ標準化得点に前後した結果となった。「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができていますか」では、目標を達成することができた。4年間学級活動を研究領域にしているので成果が出たのではないかなと思うが、やはり高学年では割合が低くなっているの子どもたちの中では、昨年より高い水準を考えて低く自己評価をしているのではと考える。「外国語が好きですか」の項目では、経年調査で大阪市平均を上回っているが目標を達成できなかった。原因を調べ来年度に向けて授業改善していきたい。体力面では、男女ともにどの学年も春よりも記録を伸ばすことができ、5年生も男女とも体力合計点が全国平均を上回り「スポーツが好き」という回答も目標を上回ることができた。

学びを支える教育環境の充実では、ICT機器の活用について児童は一人一台端末をほぼ毎日授業で使うと設問を理解したようで極端に低い値になってしまった。ゆとりの日を個人設定にしているが中々自分で設定して早く退勤できていないので今後も声を変えあっていく必要がある。読書は、学校司書と協力して図書委員会を中心に進めたり、自主学習できるような環境作りもしてきたので目標を達成することができている。地域や保護者にもHPや学校だよりを通して進めてきて一定の評価を得ている。

今後の方向性として、生活指導面では引き続きいじめの早期発見、早期対応による指導と、学校の組織的な取り組みを進めることで未然防止も含め安全・安心な学校づくりを進めていく。その指標として、「学校が楽しい」「きまりを守っている」の項目でチェックし、フィードバックしながら改善策を講じていく。一方で、今年度成果のあったたてわり活動を来年度以降も引き続き大切にして、異学年のかかわりによる育ちを推進し、子どもたちがつくる学校を目指して自主的活動を支援していく。

学力面では、引き続き、習熟度別学習の充実と家庭学習（なかのマスター）の活用など、確実に基礎・基本が定着する手立てと、教員の授業力の向上に向けて取り組んでいく。自主学習についてもいろいろな場面で保護者に伝え、子どもたちの意欲が継続できるよう学校全体で取り組んでいく。また、一人一台端末の活用場面をより増やしていくよう授業改善を行っていく。

体力面では、外遊びを推奨し、なわとび・かけ足などの週間を設けて有効な運動のあり方を模索する。体育科の授業でも準備運動に中野っ子体操を全学年で1年間通して取り組み、ラダーや運動量の多い活動を多く取り入れる。ゲーム領域では、学級活動で学んだことを生かして、チームでの作戦や運動について話し合い、学び合いができるよう授業改善を進めていく。

学年内で授業交換するなど学級担任だけでなくチームで子どもたちの学びを支え、担当する教科を減らすことで児童との関わりが持てる時間を増やし、働き甲斐のある職場づくりを進めていく。

(様式2)

大阪府立 中野小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和4年度末に85%以上にする。 ・令和4年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和4年度末に75%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育の推進】</p> <p>いじめについて考える日やいじめアンケートを活用していじめを許さない雰囲気づくりを進める。</p> <p>指標</p> <p>令和4年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」に回答する児童の割合を85%以上にする。→83%</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>学級活動を中心に自ら進んで物事に取り組む気持ちを育て自己の役割に対して責任をもって果たしたり、集団のために貢献したりしようとする教育を進めることで自己有用感を育てる。</p> <p>指標</p> <p>令和4年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和4年度末に85%以上にする。→93%</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>友だちと協力して成し遂げる体験活動(異学年交流や学習発表会等)の機会を多くもつことによって自信をもち、自分のよさを発揮できる子どもを育てる。</p>	B

<p>指標</p> <p>令和４年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和４年度末に 75 %以上にする。 → 78 %</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <p>問題があればその都度解決に向けて進めている。また、学校全体で対応しようとしている。児童の中にも、「いじめはいけない。」という意識が見られる。普段の授業を通して、いじめはしてはいけないという意識付けはできている。</p> <p>いじめを許さない雰囲気づくりに努めている。</p> <p>いじめアンケートについては学期に１回程度実施している。</p> <p>目標の 85 %には 2.2 %届かなかったが、各学級・学校全体で問題が起きたら対応し、「いじめはいけない。」雰囲気作りや、意識付けはできているので評価は B とする。</p> <p>取組内容②</p> <p>「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して肯定的な回答 3 年：100% 4 年：92.7% 5 年：89.2% 6 年 91.8% ⇒全体平均：93.4%</p> <p>○高学年は委員会を通じて、人の役に立つよう貢献している。</p> <p>低学年や中学年も学級活動を中心に自分たちの役割や責任を果たしている。</p> <p>○児童会活動や委員会活動が活発で、低学年もその影響を受け、係活動を活発に行っている。</p> <p>○学級活動の丁寧な指導が、子どもたちの自己有用感を高めている。</p> <p>○学校生活アンケート「係活動や当番活動で、みんなのためにがんばっている」に対しての肯定的な回答が 95%と高い結果になっている。</p> <p>○係活動や当番活動など、学級のために意欲的に頑張る子どもたちの姿が見られる。</p> <p>○学級活動の取り組みが定着し、話し合い活動の成果も表れている。</p> <p>○学級活動を通して、クラスや自身のことについて考えるとともに、異学年の交流についても考えられている。</p> <p>○学級会で話し合いをしっかりとすることで、相手の気持ちを考え、折り合う経験を得ている。</p> <p>取組内容③</p> <p>○学校生活において、充実感をもちながら生活できている。</p> <p>○77.4%と目標値を上回っている。コロナ禍の中でも工夫して、異学年交流を続けてきた結果が数字として表れている。</p> <p>○自己肯定感を高めるために、普段の学活や集会、たてわり班活動などにおける成果が出ている。</p> <p>○自分の好きなところやよいところがあると思える児童が多い。 (友だちのお助けでお礼を言われたり、教師から認められたと感じられる言葉がけを覚えていたり…)</p> <p>○児童会の取り組みが大きく、異学年交流が盛ん。異学年への意識も高く、異学年交流を</p>	

<p>楽しみにしている児童が多い。</p> <p>○自分のよさを発揮できるような機会や工夫をしている。</p> <p>○児童会を中心に学校全体での行事を多く実施できている。</p> <p>○学校行事のほかにも、係活動や集会を行うことによって、友だちのよさを見つけられている。</p>
<p>次年度への改善点</p>
<p>取組内容①</p> <p>「いじめはいけない」雰囲気作り、意識付けは今後も継続して行う必要がある。</p> <p>取組内容②</p> <p>○人の役に立つ喜びを感じている児童は多くいるが、進んで実践している児童が 85%以上とは考えられない。（気持ちは 100%、行動は 80%くらい）</p> <p>○経年調査の質問に対して、6 年生の結果は 91.8%と大きく上回ったが、最も肯定的が 63%であるため、学級活動や学年集団での取り組みなどを工夫して進め、自己有用感を育てる取り組みを行わなければならないと感じる。</p> <p>取組内容③</p> <p>○高学年に上がるにつれ、数値が下がっている。今度も、自己肯定感を高める取り組みを継続して行う必要がある。</p> <p>○1 つでも自分のよいところに気づいている児童は多いが、ダメなところを感じている部分もある。→自己肯定感の低さから？</p>

大阪府立 中野小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標(小学校) <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。 学校の年度目標 ○新体力テストの反復横跳びを全学年、年3回実施し前回よりも記録を上回る。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 授業の中で、必ずペアトークや小グループでの話し合いの場を設定し、自分の考えをまとめて書いたり、発表ボードを使って発表したりして学びを深めあう。	A
指標 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。→41%	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 実態把握をし、習熟度別少人数授業を充実させ、基礎基本の反復練習や発展学習ができるよう自主学習を全学年で取り組み学び方を身に付けさせる。	B
指標 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。 →国語 4年 +0.06、5年 +0.03 6年 -0.04 算数 4年 +0.07、5年 ±0 6年 -0.01 ※達成できている学年とそうでない学年がある。	

<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>朝の外国語活動の充実・時間の確保、授業の中でコミュニケーションが取れる活動を必ず取り入れ、話すことに慣れさせる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。→73%</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向 4 健やかな体の育成】</p> <p>体力向上に向けて体育科の授業や外遊びの工夫・改善</p> <p>授業の初めにラダーやミニハードル、中野っ子体操を取り入れ、継続して体力づくりを進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60%以上にする。→69% ・新体力テストの反復横跳びを全学年年3回実施し前回よりも記録を上回る。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <p>○上の指標の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が40.5パーセントと目標値より上だった。</p> <p>○しかし、学年によりばらつきがある。学年が上がるごとに、肯定的に回答する児童が減っている（4年以上は、目標値を下回るものであった）</p> <p>○ペアトークやグループトークを様々な教科・領域で取り組むことで、自分の考えを発信しやすく友だちの話を聞くことで、考えを広げることができている。そのような場を多く設定することで、学びが深まった。</p> <p>○学級活動の時間を中心に、友だちと意見を交流したり、発表したりする活動をととても楽しみにしている。</p> <p>取組内容②</p> <p>○習熟度別による授業の成果が出ている。算数専科を設けることで学力の底上げができている。</p> <p>○自主学習の仕方を丁寧に指導してきたため、低学年も意欲的にとりくんでいる。いろいろな学年の自主学習を掲示しているため視野が広がっている。</p> <p>○毎週各学年で自主学習に取り組んでいる。参考になる自主学習を掲示することでさらに意欲が上がり、手本になる。</p> <p>○低学年では、中身がしっかり調べている子とそうでない子がおり少し差はある。</p> <p>○自主学習は、低学年から取り組めているので中野全体として力になっていると思う。</p> <p>取組内容③</p> <p>○児童の活動の様子を見ると、とても楽しそうにしているし、外国語を使ってコミュニケーションをとることができている。</p>	

- 毎時間の振り返りカードをみても、肯定的に回答している児童が多い。
- 数字を分析すると、外国語の授業を楽しんでいるが、「楽しい」が「好き」に結びついていない事が分かる。
- クラスの人数と肯定的回答の割合が反比例している事から、クラスの人数が肯定的回答に何かしら影響しているのかもしれない。

取組内容④

- 小学校学力経年調査の運動が好きかの項目において、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合で69%となった。（3年～6年の平均）
- 反復横跳びに関して、3学期の分をまだ実施できていないが、1学期に比べ、2学期の記録は約半数以上の児童が記録を更新することができていた。
- 学校アンケートの運動やスポーツが好きな児童が89%と多い。アンケートの実施が後期だったことから、運動会やいろいろな行事を通して体を動かすことが好きになった児童が増えてきていると考える。また、なわとびカードやマラソンカードの存在が意欲を向上させている。
- ランニングウィークスで自主的に走っている児童が多く見られた。ウィークスでがんばったからこそ、数年ぶりのフェスティバルのがんばりにつなげることができた。
- 中野っ子体操がパワーアップし、筋力や体力を楽しくつけることができています。
- 中野っ子体操やラダーが習慣化してきているので、反復横跳びの記録が伸びてきている児童が多い。
- 新しく中野っ子体操や短縄などのイベントをできたので、さらに内容を高めていきたい。
- 体育科で取り組んだスポーツや、運動委員会が中心となって取り組んだイベントで取り組んだことを、休み時間にも積極的に取り組んでいる児童が多い。

次年度への改善点

取組内容①

- 自分の考えを深めたり広めたりというところがなかなかむずかしいところがある。とくに深めるというところはまだ十分ではないと感じる。なので、継続して指導していきことや話し合い活動に取り組むこと、振り返り活動を大切に行うことが重要である。

取組内容②

- 自主学習は、張り出すだけでなく何か達成感ややってよかったと思えるような取り組み方（しかけ）ができれば更に意欲的に取り組むようになるのではないかな。
- 各学期に一度は、国語の習熟をするなど、国語にも力を入れた方が良いと思う。

取組内容③

- 引き続き、児童が自信を持って「好き」と言えるような指導していく必要がある。

取組内容④

- ラダーやミニハードルを1学期は取り組んでいたが、23学期で回数が減ってしまった。
- 細かい動きができるように、ラダーやミニハードル等を継続していく必要がある。
- 中野っ子体操にあきてきて、きちんとしないう児童も増えてくると予想するため、改善も検討する必要がある。

大阪市内 中野小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標 (小学校)</p> <p>基本的な方向 6 教育 DX の推進</p> <p>・令和 4 年度の全国学力・学習状況調査の 5 年生の時に受けた授業で、コンピューターなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 80 % 以上にする。</p> <p>基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり</p> <p>・ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。学校閉庁日は、夏季休業で 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間において 1 日以上設定する。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>基本的な方向 8 生涯学習の支援</p> <p>・令和 4 年度の小学校学力経年調査・校内調査の読書は好きですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を 70 % 以上にする。</p> <p>基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協議した教育の推進</p> <p>・令和 4 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を行おうとしているか」の項目について、肯定的な回答 70 % 以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】</p> <p>デジタル教科書やタブレット等 ICT を授業の中で多く取り入れ、観察したことや調べたこと等をまとめて発表できるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・児童学校生活アンケートで「デジタル教科書やタブレット等 ICT を使った授業は分かりやすい」の項目について肯定的に回答する児童の割合を 85 % にする。 → 93 %</p> <p>・令和 4 年度の全国学力・学習状況調査の 5 年生の時に受けた授業で、コンピューターなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 80 % 以上にする。→ 5.4 %</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>稼業中はゆとりの日を設定し、長期休業中においては学校閉庁日を設定する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。学校閉庁日は、夏季休業で 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間において 1 日以上設定する。</p>	B

<p>取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <p>本をいつも読めるようにし、図書館開放や、読み聞かせ、本の紹介、読みたい本のランキングなど子どもたちが本に興味を持てるような活動を工夫する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和 4 年度の小学校学力経年調査・校内調査の読書は好きですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を 70 %以上にする。→83 %</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協議した教育の推進】</p> <p>学校だより、ホームページ、家庭学習チェックシートなどを活用して学校の教育活動を分かりやすく伝えていく。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年度末の保護者アンケートの「学校は学校だより、ホームページ等で教育活動を分かりやすく伝えている」の項目について肯定的に回答する保護者の割合を 94 %以上にする。→96 % ・令和 4 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を行おうとしているか」の項目について、肯定的な回答を 70 %以上にする。→93 % 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <p>○学校生活アンケートの指標は全体 93 %と上回っている。</p> <p>○ただし、令和 4 年度の全国学力・学習状況調査の 5 年生の時に受けた授業で、コンピューターなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 80 %以上の項目において、実際の数字は 5 %だった。（デジタル教科書を含めるとほぼ毎日 ICT を活用していると思うが、タブレットを毎日使用していると思って回答しているためと思われる。）</p> <p>○デジタル教科書の活用は、ほぼできている。</p> <p>取組内容②</p> <p>○学校閉庁日に関しては、計画通り設定することができた。</p> <p>○ゆとりの日を各個人で設定するのはなかなか難しいと感じる教職員が多い。</p> <p>取組内容③</p> <p>○図書委員会が毎日図書館開放を行ったり、週に 1 回低学年に読み聞かせに行ったりした。また、本の帯作りやポスター作りを通して本の紹介を行った。図書クイズは、たくさんの児童が参加できるよう工夫した。</p> <p>○学級活動の時間を活用し、児童の読書への意欲を高めた。</p> <p>○学校司書の川田さんが図書室を整備したり、読み聞かせやブックトークをしたり、児童や教職員から相談を受けて資料を探すお手伝いなどをしてくださった。</p> <p>○川田さんや図書委員会とも相談し、児童が読みたいと思っている本をたくさん購入した。また、1 週間に借りることができる冊数を 2 冊に増やした。</p> <p>○児童アンケート「読書をすることが好きである」についての肯定的な回答は 84%、小学校学力経年調査の「読書は好きですか。」についての肯定的な回答は 83.25%と、高かった。</p>	

<p>取組内容④</p> <p>○学校だより、ホームページの両方で学校の教育活動の様子を伝えることができた。</p> <p>○アンケートの結果から、97%と96%と指標を達成することができている。</p>
<p>次年度への改善点</p>
<p>取組内容①</p> <p>○今後、タブレットを使って、広めたり、深めたりする活動ができる（全教職員が指導できる）とさらに良い。</p> <p>○低学年から系統立てて指導していけるとよりよい。</p> <p>○心の天気だけでも毎朝入力するよう指導していけるようにしたい。</p> <p>取組内容②</p> <p>○お互いに声を掛け合って仕事の分担をする必要がある。</p> <p>取組内容③</p> <p>○本に興味のない児童にどうアプローチしていくかが今後の課題である。</p> <p>→図書委員会が購入してほしい本のリクエストを募集している。集計して、来年度の本の購入に生かし、さらに魅力的な図書室にしていきたい。</p> <p>取組内容④</p> <p>今後、コロナ対応が終了してきた今、地域との連携をより強化していく必要がある。</p>

令和 4 年度 学校関係者評価報告書

大阪市内立中野小学校協議会

1 総括についての評価

昨年度より標準化得点を全学年 0.02 上げることはできなかったが、経年比較すると 6 年生は 3 年生の時から比べて年々力がついてきているので、今年の 3 年生も国語と理科が大阪市平均を下回ったが、同じように力をつけてやってほしい。外国語が好きという項目も目標達成できていないが、よくできているので気にしないでいいのではないかと？また、子どもに理由を尋ねてみて来年度に生かしてほしい。いじめはどんな理由があってもいけないことだと思ふ最も肯定的な意見の割合が昨年より下がっている、来年度は、より子どもに訴えていかねばならないということを伝えた。後の項目については、概ね肯定的な意見をいただいた。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：全市共通目標(小学校)

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60%以上にする。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

- ・令和 4 年度の全国学力・学習状況調査の 5 年生の時に受けた授業で、コンピューターなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 80%以上にする。
- ・ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。学校閉庁日は、夏季休業で 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間において 1 日以上設定する。

年度目標：学校の年度目標

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- ・令和 4 年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和 4 年度末に 85%以上にする。
- ・令和 4 年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和 4 年度末に 75%以上にする。

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○新体力テストの反復横跳びを全学年、年 3 回実施し前回よりも記録を上回る。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

- ・令和 4 年度の小学校学力経年調査・校内調査の読書は好きですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を 70%以上にする。
- ・令和 4 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を行おうとしているか」の項目について、肯定的な回答 70%以上にする。

- ・いじめに関しては、昨年度より数値が下がってしまったので、どんな理由があってもいけないということを学校全体で考える機会を増やしていく。
- ・不登校の割合が増えてしまったので、来年度は保健室登校からでも進めて減らしていく。
- ・学級活動を中心に研究活動が続けてきたので、話し合うことや話し合いの仕方がわかり、成果があり目標を達成できた。
- ・運動に親しむ機会を運動委員会を中心に持つことができ、外遊びを推奨してきた成果があり、目標を達成することができた。
- ・ICTを一人一台端末ととらえた児童が多く極端に低い値になってしまった。
- ・ゆとりの日を個人のペースに合わせて設定しているので、中々自分で設定できずにいる職員がまだ多い。
- ・係活動等を通して人の役に立ちたいと考える児童が多く育っている所以目標を達成することができた。
- ・反復横跳びは、徐々に記録が伸び、前回の記録を上回り、全国体力・運動能力等調査でも全国平均を上回っている。
- ・図書委員会が毎日図書館開放をしていることや図書委員会の取り組みにより読書好きの児童が増加し、目標を達成することができた。
- ・学校は保護者や地域と連携しているかについては、肯定的な意見が目標を大きく上回った。

3 今後の学校園の運営についての意見

達成できなかった項目については、原因を明らかにし、来年度の年度目標を決める参考にしていきたい。どの項目も高学年に行くほど割合が下がっていく傾向があるので、自尊感情が高められる取り組みを継続して行っていく必要がある。

一人一台端末の使用については、まだまだ学級差が大きいので心の天気の利用を強く訴えていく。

ゆとりの日については、お互いにもっと声を掛け合って早く帰れる雰囲気をつくっていく。HPや学校だより等で発信することや学校公開により学校のことを知っていただいているが、コロナ対応が収束してきたことにより、地域との連携をより強化していく必要がある。